

平成24年度  
滝川市学校の魅力づくり事業  
(英語力を強化する指導改善の取組)  
実施報告

北海道滝川西高等学校  
英語科  
平成25年3月1日

## 報告の趣旨①

- ・ 報告をプレゼンテーションソフトで行う。

### 理由

- ・ 資料が紙媒体であると、使いたい資料も一からパソコンに打ち直さなければならない。
- ・ 遠隔地に報告する場合に郵送料が必要になる。電子媒体であれば、メールで添付可能である。
- ・ ホームページ上に貼り付ければ、直接本校にコンタクトを取らなくても、報告書の閲覧が可能になる。

\* ホームページ上にはPDFファイルの形で表示しておりますので、資料ご希望の方は本校にご連絡(emailでお願いします。)ください。  
メールアドレスはinfo@takinishi.ed.jp です。

## 報告の趣旨②

- ・ 資料をクリックすれば、資料の隅々まで閲覧でき、その上、パソコン上で自分のパソコンにコピー、修正が可能になる。
- ・ プレゼンテーションの画面で説明不足となる点については、ノートを参照にすることで説明を補うことができる。
- ・ カラーの報告ができる。さらに動画での報告もすることができる。
- ・ CD-RやDVDに保存することで、限られた予算の中でも十分な数の報告を作成できる。

以上のメリットを生かすため、報告をプレゼンテーションで行います。  
また、報告自体もプレゼンテーションの形であれば、より利便性のある、より解かりやすい報告ができると思います。

## 本日の説明内容

- ①小中高連携の意義とメリット
- ②小中高合同CAN-DOリスト
- ③CAN-DOリストと  
観点別評価とのリンク
- ④テスト作成から観点別評価への  
手順と実施例
- ⑤ICT機器の授業への活用
- ⑥授業アンケート集計と結果分析

## ①小中高連携の意義とメリット



# 小中高連携の意義

多くの地域で見られる英語教育の現状

小学校（コミュニケーション指導）



中学校・高校（受験指導）

もともとコミュニケーション能力育成のために  
出発した英語教育のあり方が、高校入試、大学  
入試の波及効果のために引き継がれていかない。



小中高の英語教員による一環したコミュニケーション  
能力指導への認識を深める必要  
(話すこと、書くこと、聞くこと、読むことの4技能を満遍なく  
若い頃に経験させる。)

日本各地で行われている英語の授業については次のような課題があると考えます。

「小学校、中学校、高等学校それぞれの英語教育において、一貫した柱になっているはずの「コミュニケーション能力の育成」が高校入試、大学入試のテストの波及効果のために受験指導中心になってしまい、一貫性を欠いてしまっている。  
その結果、入試には対策がとれても、コミュニケーション能力が身についていない。」

近い未来のみだけでなく、もっと先の未来も視野に入れて英語教育をするために、「コミュニケーション能力の育成」という柱を大事にすることを小中高連携を通して認識を深めていくことが大事だと考えます。

具体的には、話すこと、書くこと、聞くこと、読むことの4技能を満遍なく使う経験(言語活動)をたくさん若い頃に経験させ、将来英語が必要になったときにその経験が生きるようにすることです。

現在社会で活躍してる人達の世代はリスニング、ライティング、スピーキングの経験がない

まま社会人になっている人がほとんどですが、やはりリスニング、ライティング、スピーキングに

は苦手意識を持っていると思います。次の世代の子供たちが、私たちと同じことを繰り返させないためにもこの取り組みは非常に大切だと考えます。

大人になって、特に年を重ねてからはじめておこなう仕事は、おおきなハードルになるように、若いころに将来必要になると考えられることを経験させることは大切なことだと思います。

## 小中高連携のメリット

- ・高校の観点別評価の導入のため、小中学校からノウハウを学ぶことができる。
- ・中学校はCAN-DOリスト作成のノウハウを高等学校から学ぶことができる。\* 5つの提言では中学校は作成することとなっている。
- ・小学校から、英語教育の一番の柱である言語活動（コミュニケーション活動）の流れを受け継ぎ、中高でさらに育てていく共通認識を得ることができる。
- ・小中高それぞれの授業から、実践の交流・応用（英語の授業と考えれば、お互い学ぶべきことが多い）
- ・合同CAN-DOリスト作成による一環した英語教育への取り組みを進めることができる。

現状では、高校は観点別評価がやっと動き始めたところであり、やり方をよくわかっていないという現実も多々あると思います。

しかし、完全実施されている小中学校からノウハウを教わることで、取り組みを推進することができます。

また、高校はCan-doリストをすでに作成している学校も数多くあり、中学校にノウハウを伝えることができます。

\* 5つの提言と具体的施策では中学校もCan-doリストを作成することになっていません。

さらに、先ほども述べたことですが、「コミュニケーション能力の育成」という柱を小中高で研修することによって確認することができます。

また、小中高というラベルを取り外し、「英語の授業」という共通項をみれば、授業交流をすることで、応用が利く指導もたくさんあります。

特に義務教育の先生方は、授業で子供を動かすことが上手な方が多くいらっしゃいますので、非常に参考になると思います。

## ②小中高合同CAN-DOリスト作成

～滝西Can-doリストの改定とシラバスとのリンク～



# 小中高合同Can-doリストの作成

国際共通語としての英語力向上のための  
5つの提言と具体的施策より

「**中高等学校は、学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定・公表するとともに、その達成状況を把握する。**



- ① 小学校は年間指導計画
- ② 中学校はCAN-DOリストの作成
- ③ 高校は新要領に向けたCAN-DOリストの改定を行いました。

国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策では、

**「中・高等学校は、学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定・公表するとともに、その達成状況を把握する。」**となっております。

高校ではCAN-DOリスト型到達目標を作成済みの学校が多くなってきましたが、中学校も今後同じように作成を求められることになりそうです。本プロジェクトでは、この提言に倣い、先んじて合同CAN-DOリストの作成に着手しました。

協力校である滝川市立西小学校、滝川市立開西中学校の協力により、合同授業研究会を行い、小学校、中学校、高校それぞれの英語の授業を見学し合い、その後、作成に着手しました。

年間事業経過		
月	校内における取組	研究協議会等
4月	研究の計画・校内組織作成	
5月	授業研究 短期留学準備会	3校協議会(1) (顔合わせ、協力のお願い)
6月	授業研究 廣川益郎 交流協会 高橋幸治 英語教育ボランティア東校 志穂達 ENGLISH CAMP 先生派遣	運営指導委員会(1) 公開授業(東校) 校内研修会(1) テーマ「事業の取組めみ」
7月	高橋方雄 駐米参事 GTEC受検(普通科)	授業研究会(1) 【公開授業(中学校、高校) 拠点校指導教員北海道旭川北高等学校 松井肇朗氏 によるワークショップ】
8月	授業研究	
9月	有業者講演会① 小樽商科大学 中津川雅直氏	小樽商科大学 中津川雅直氏 マークホルスト氏に授業を公開 ONE DAY ENGLISH CAMP IN TAKINISHI 実施 校内研修会(2) テーマ:「Can-doリスト及び観点別評価に基づく授業のあり方」
10月	授業研究 1. 4年組 実用英語技能試験 シンガポール短期留学先派遣 藤川市ジュニア大使派遣	授業研究会(2) 公開授業(中学校)
11月	授業研究	授業研究会(3) 公開授業(小学校) 3校協議会(CAN-DOリスト学習到達目標作成に向けて) 授業研究会(4) 【公開授業(高校) 拠点校指導教員北海道旭川北高等学校 松井肇朗氏東校】
12月	GTEC受検(普通科) 有業者講演会② アナロットカンボジア代表 留学生報告	授業研究会(5) 公開授業(高校) 校内研修会(3) テーマ:「観点別評価に基づく評価・テストのあり方」
1月	実用英語受検(普通科)	3校協議会(2) (小中高一貫 Can-do リスト完成に向け最終打合せ)
2月	研究組織作成	
3月	研究組織作成	
【その他特記すべき取組】		
1. 高校志による小学校への出前授業 (1) 第1回 5月実施 (2年普通科国際文化コース 8(日)進民等) (2) 第2回 1月～2月実施に向け模範中 (2年普通科国際文化コース)		

4月から行われた事業です。4月～11月までの間で合同研修会を行い、11月の3校協議会から合同CAN-DOリスト作りに着手しました。そして1月末にCan-doリストの調整会議を行い、完成させました。

**\* 資料をクリックすることで、年間事業の詳細を拡大して閲覧することができます。**

## Can-doリスト作成時の要点①

- ・ 小学校は「英語の音声に慣れ親しみ、英語でのコミュニケーションへの関心を高める」のが目的であるため、評価規準の語尾は「～している。」「～に関心をもっている。」「～に気付いている。」等にする。
- ・ 小学校は上記の目的のため、Can-doリストは作成することにはなっていない。そのため、英語の年間学習計画をもってCan-doリストの役割を果たすものとする。

5つの提言では、小学校はCAN-DOリストを作成することにはなっていません。それは、小学校の英語教育では「英語の音声に慣れ親しみ、英語でのコミュニケーションへの関心を高める」ために授業が行われるためです。よって、次に示す西小学校の英語の年間学習計画にある評価規準は「～している」「～に関心を持っている」という語尾になっています。

# 滝川市立西小学校英語年間指導計画

滝川市立西小学校外国語活動指導計画表  
第5学年

時	題材名	学習内容	主な英単語・会話	評価規準
1	オリエンテーション 世界のあいさつ	オリエンテーション 世界には様々なあいさつがあることを知る。 ・世界のこんにちは	* 日本、韓国、中国、フランス、ロシア、ブラジル、 クニアの「こんにちは」 Hello. What's your name? My name is ~. Nice to meet you.	・本時では、児童がはじめて外国語に出会うことから、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。
2		挨拶のマナーを知り、積極的に挨拶し、自分の名前を言う。 ・おはよう、はじめまして ・会った時、分かれる時 ・自己紹介	morning afternoon evening good-bye Good morning. How are you? I'm fine thank you. Hello. I'm~. Nice to meet you.(too) Good bye. Hi~ See you later.  * アメリカ、インド、ニュージーランド、モンゴル等のあいさつ(ジェスチャー)	・本時では、児童がはじめて外国語に出会うことから、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。
3	数字	1～20の数を言う。	one two three four five..... eleven twelve thirteen fourteen fifteen six teen.....	・1～20の数を聞いたり言ったりしている。
4		いくつか尋ねたり、1～20の数を答えたりする。 数を扱ったゲームを行う。	How many?	・1～20の数を尋ねる表現を聞いたり言ったりしている。 ・自分の相手を見つけて、数を尋ねたり答えたりしている。
5		電話番号を尋ねる。	What's your phone number? It's~.	・進んで数を数えたり尋ねたりしている。
6	食べ物(好き嫌い)	食べ物の好き嫌いについて尋ねる。	Do you like apples? Yes. I do. No. I don't.	・食べ物などの言い方について、日本語と英語では音が違うことに気付いている。 ・好きなものを尋ねたり答えたりする表現を聞いている。
7		自分の好き嫌いを相手に伝える。	I like bananas. Thank you.等	・好きなものや嫌いなものを表す表現を聞いたり言ったりしている。
8		友達に好き嫌いを尋ねる。	* スポーツ等	・進んで好きなものを尋ねたり答えたりしている。
9	天気	天気を表わす語を知る。	fine sunny clear cloudy rainy snowy thu rday hot cold	・天気を表わす言葉を聞いたり言ったりしている。
10		天気を尋ねる。	How is the weather?	・天気について、尋ねたり答えたりしている。
11	外来語①	身の回りがある外来語を見つけ、	What's this? It's a lemon.	・様々な物の言い方から、言葉の面白さに気付いている。

**資料をクリックすると白い枠が現れます。**

**その外側の白い枠にポインタを合わせたあと右クリックし、ワークシートドキュメントの「開く」をクリックすると、ワードの画面で開くことができます。**

滝川市立西小学校には上記のような、しっかりとした指導計画・評価計画が元々ありました。

拡大すると、評価規準の語尾は「～している。」「～に気付いている。」「～に関心を持っている。」

となっていると思います。ここが、小学校での英語教育のポイントになっているところだと思います。

この表の中では分かりやすいように、赤や青で表示されています。



## Can-doリスト作成時の要点②

- ① いつまでにどのような英語力を身に付けさせたいのかを具体的に記述した一覧表を作成する。
- ② 学年（科目）ごと、4技能別（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）に作成する。
- ③ 保護者にもわかりやすくするため、**文法の記載はせず、授業内外の活動場面でなにができるようになるのかを記載する。**つまり、語尾は「～できる。」とする。
- ④ 授業中の活動や、テストをどのようにするのかをイメージして、適切な表現と適切な数の到達目標を設定する。
- ⑤ 本校のCan-doリストに重なる部分があっても開西中学校が育てたい生徒像を優先させる。

中学校、高等学校の英語授業の目的は4技能という「能力」を身に付けることにあ  
るため、

CAN-DOリスト上の評価規準の語尾は「～できる」となっています。

上に示したとおり、中学校ではCAN-DOリストを作成している学校が少ないため、  
協力校の先生方には、①～⑤の部分に注意して作成するようにお願いしました。

⑤については本校は学力的には2番手の学校ですので、重なる部分もあると考え  
たためです。

# 滝川市立開西中学校Can-doリスト

Can-doリスト		滝川市立開西中学校
Step 1 1年生1学期終了までに		
到達目標	自分の事について述べることができる。	
SPEAKING	「おはよう」や「こんにちは」の日常のあいさつができる。 友だちを強の人に紹介することができる。 自己紹介のスピーチができる。 ものについて、たずねたり、答えたりすることができる。 相手のことについてたずねることができる。	
LISTENING	相手の言葉に答えたりすることができる。 自己紹介の英文を聞いて、理解することができる。	
READING	友だちの自己紹介を読んで理解することができる。	
WRITING	アルファベットの大文字、小文字を正しく書くことができる。	
Step 2 1年生2学期終了までに		
到達目標	友達のことについて述べるができる。	
SPEAKING	友だちや知り合いについてたずねたり、答えることができる。 「だれがどこのいっしょ」について「どのようになどをたずねたり、答えたりすることができる。 現在の時間や時間を書いたり、たずねたりすることができる。 相手に話んだり、連絡したり、指示したりできる。 できることについて述べてたり、質問したりできる。	
LISTENING	英文聞いて誰が何をするか理解できる。	
READING	友だちや知り合いについての紹介文を読んで理解することができる。	
WRITING	友達や家族を紹介するスピーチ文を書くことができる。 自分の目標や過ごし方を述べることができる。 月日、天気、季節に関する短文を使うことができる。	
Step 3 1年生終了までに		
到達目標	中学生の行動について調べ、結果を報告することができる。	
SPEAKING	今していることを説明したり、たずねたりすることができる。 電話で対話することができる。 理由をたずねたり、答えることができる。 過去にしたことを説明したり、たずねたりすることができる。	
LISTENING	相づちを打ちながら相手の言うことを聞くことができる。	
READING	だれが何をどうしているのか、英文を読んで理解することができる。	
WRITING	調査したことをまとめ、発表することができる。 手紙やメール文で、したことやその感想などを伝えることができる。	

**外側の白い枠にポインタを合わせたあと右クリックし、ワークシートオブジェクトの「開く」をクリックすると、エクセルの画面で開くことができます。**  
**必要な方はコピー&ペーストしてお使いください。**

**完成した滝川市立開西中学校のCan-doリストです。**  
**それぞれの学年での学期ごとの技能別学習到達目標の一覧表です。**



～滝西Can-doリスト改定とシラバスのリンク～

## 西高校Can-doリスト改定の要点

- ① シラバスとのリンクを作成し、実施可能な回数の到達目標の設定と評価のバランスを考える。
- ② 特に普通科は選択科目があるため、科目で設定すべき評価規準に注意する。
- ③ サンプルテストの作成

本校にはSELHi研究校であった頃から、Can-doリストがありました。

新学習指導要領の実施にむけて、次の点を考慮して、新滝西Can-doリストの作成に着手しました。

特に、観点別評価との整合性をはかるために、上の3つの点を考慮して作成しました。



# シラバスの作成

**シラバスをクリックすると、本校のビジネス科のコミュニケーション英語基礎(前期1単位)のシラバスの中身すべてと作成上の注意を見ることができます。必要であればコピー＆ペーストしてお使いください。(ワードファイルです)**

**外側の白い枠にポインタを合わせたあと右クリックし、ワークシートドキュメントの「開く」をクリックすると、ワードの画面で開くことができます。**

Can-doリスト作成後、シラバスに評価規準を落とし込んでみました。すると、実施可能か、項目が多すぎるのかが見えてきました。そして再度Can-doリストの修正を行いました。このように、シラバスとCan-doリストの両方を常に比較・検討し、2つが整合性を持つように調整をしていきます。

現在は、全ての教科書が存在してはいないので、入手している「コミュニケーション英語基礎」と「コミュニケーション英語Ⅰ」についてのみシラバスが作成できました。

よって、来年度以降は新しい教科書が出るたびに同じ作業をして、場合によってはCan-doリストの若干の変更があると考えられます。

# 滝西Can-doリスト (ビジネス科)

滝西高校 新ビジネス科Can-doリスト(新課程用)

Step 1【実用英検4級程度】1年前終了時まで		自己評価 1～4
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に慣れる簡単な質問に英語で答えながら会話を継続することができる。</li> </ul>	
<b>SPEAKING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の事に限しての簡単な質問に答えることができる。</li> <li>あらかじめ準備をして、自己紹介や、学校、他の紹介などについてのみ話すことができる。</li> </ul>	
<b>LISTENING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の単語・単語集・単語カードの発音、読み取り、発音書程度であれば、短い会話やメモログを聞き、概要を理解できる。</li> </ul>	
<b>READING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初歩的な英文(実用英検4級、コミュニケーション英語基礎程度)であれば、初見で英文を読み、概要を理解できる。</li> <li>教科書レベルの英文(コミュニケーション英語1)であれば正確かつ流暢に音読できる。</li> </ul>	
<b>WRITING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>50語程度で自己紹介の書き、学校、他の紹介などのスピーチ原稿を書ける。</li> </ul>	
Step 2【実用英検4級～3級 全商英検4級程度】1年生後終了時まで		自己評価 1～4
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なことに関わる簡単な質問に英語で答えながら会話を継続することができる。</li> <li>身近なことに関する質問に英文以上で答えることができる。</li> <li>あらかじめ準備して、「自分の意思の得喪、学校生活、習体等」とその理由をスピーチできる。</li> </ul>	
<b>SPEAKING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なことに関する質問に英文以上で答えることができる。</li> <li>あらかじめ準備して、「自分の意思の得喪、学校生活、習体等」とその理由をスピーチできる。</li> </ul>	
<b>LISTENING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的簡単な英語(実用英検3級/3級相当程度、教科書程度)であれば、比較的長い会話やメモログを聞き、概要を理解できる。</li> <li>比較的簡単な英文(実用英検3級の単語、発音等、コミュニケーション英語1前半部程度)であれば、初見で読み、概要を理解できる。</li> <li>教科書レベルの英文(コミュニケーション英語1)であれば正確かつ流暢に音読できる。*</li> </ul>	
<b>READING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的簡単な英文(実用英検3級の単語、発音等、コミュニケーション英語1前半部程度)であれば、初見で読み、概要を理解できる。</li> <li>教科書レベルの英文(コミュニケーション英語1)であれば正確かつ流暢に音読できる。*</li> </ul>	
<b>WRITING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>40語程度で自分の意思の得喪、学校生活、習体等とその理由を書ける。</li> </ul>	
Step 3【GTEC GRADE2(300～379) 実用英検3級 全商英検3級程度】2年生終了時まで		自己評価 1～4
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トピックに関連した話題の簡単な書き、文化などについて書かれたカードの説明をJTEやALTIに付いながら会話を継続できる。</li> <li>身近なトピックであれば、自分の考えを30秒程度英語で話すことができる。</li> </ul>	
<b>SPEAKING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物事(1)カテゴリー(動物、人間、道具、行事、機会など)、2色や形状、具体的な様子の順に説明できる。</li> <li>身近なトピックであれば、自分の考えを30秒程度英語で話すことができる。</li> <li>あらかじめ準備して、自分の考え、得意な物事の書き(説明SHOW&amp;TELL)をすることができる。</li> </ul>	
<b>LISTENING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英語(実用英検3級リスニング第1部、第2部、教科書程度)であれば、短い会話やメモログを聞き、概要を理解できる。</li> <li>簡単な英語(実用英検3級リスニング第3部、教科書程度)であれば、比較的長い会話やメモログを聞き、概要を理解できる。</li> </ul>	
<b>READING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な英文(実用英検3級読解英文、コミュニケーション英語1前半部程度)であれば、初見で読み、概要を理解できる。</li> <li>教科書レベルの英文(コミュニケーション英語1)であれば正確かつ流暢に音読することができる。*</li> </ul>	
<b>WRITING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>70語程度でSHOW&amp;TELLの英語を書けることができる。</li> </ul>	
Step 4【GTEC GRADE3(380～439) 英検3級～準2級 全商英検2級程度】卒業時まで		自己評価 1～4
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ準備して、プレゼンテーション(北海道の旅行のプラン等)ができる。</li> <li>得意なことについてであれば、JTEやALTIと対話可能な内容を継続することができる。</li> <li>身近なトピックに対して、自分の考え(賛成・反対)どちらをより好むかとその理由を話すことができる。</li> </ul>	
<b>SPEAKING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ準備して、プレゼンテーションをすることができる。</li> <li>身近なトピックに対して、自分の考え(賛成・反対)どちらをより好むかとその理由を話すことができる。</li> </ul>	
<b>LISTENING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実用英検標準と準2級、コミュニケーション英語1程度の短い会話・会話・メモログ(第1部程度)を聞き、概要を理解できる。</li> <li>実用英検標準と準2級、コミュニケーション英語1程度の比較的長い会話・メモログ(第3部程度)を聞き、概要を理解できる。</li> </ul>	
<b>READING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実用英検標準と準2級、コミュニケーション英語1程度の英文を初見で読み、概要を理解できる。</li> <li>身近なトピックに対して、自分の考え(賛成・反対)どちらをより好むかとその理由を70語程度で書くことができる。</li> <li>課題研究で作成したプレゼンテーション資料の英語版を作成できる。</li> </ul>	
<b>WRITING</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>70語程度で自分の考え(賛成・反対)どちらをより好むかとその理由を70語程度で書くことができる。</li> <li>課題研究で作成したプレゼンテーション資料の英語版を作成できる。</li> </ul>	

**外側の白い枠にポインタを合わせたあと右クリックし、ワークシートオブジェクトの「開く」をクリックすると、エクセルの画面で開くことができます。**  
**必要な方はコピー＆ペーストしてお使いください。**

先ほどのシラバスとリンクさせた、ビジネス科のCan-doリストです。

STEP1を良く見ていただくとわかると思いますが、先ほどのシラバスとリンクしていると思います。

普通科と異なる特色は、ビジネスシーンとして、3年生での最終ゴールがプレゼンテーションになっているところです。

商業科の課題研究のプレゼンテーションの英語版を作成し、発表会を行うことをゴールとしています。

そして、代表者が課題研究発表会の特別プレゼンテーションで発表を行います。それができるようになるために必要な言語活動を行っていくしかけです。

# 滝西Can-doリスト（普通科）

滝西高校 普通科Can-doリスト（新課程用）

Step	到達目標	評価項目
Step 1 【英検4級～3級 GTEC1～2程度】コミュニケーション英語基礎終了時まで	<p><b>到達目標</b> あるいはその準拠として、自己紹介や、学校、教室の紹介などについて話せることができる。</p> <p><b>SPEAKING</b> 簡単な文法を用いて、自己紹介や、学校、教室の紹介などについて話せることができる。</p> <p><b>LISTENING</b> 簡単な英語（英検準級）のリスニング（聞、聴）の理解ができる。あるいは、短い英語や生のラジオ番組、録音を聴取できる。</p> <p><b>READING</b> 簡単な英文（英検準級）の読解の理解ができる。あるいは、簡単な英文を読み、内容を理解できる。</p> <p><b>WRITING</b> 100程度まで自己紹介や学校、教室の紹介などの短文書けよう。</p>	<p>自己評価 11～41</p>
Step 2 【英検3級程度 GTEC GRADE2(300～379)程度】コミュニケーション英語1終了時まで	<p><b>到達目標</b> あるいはその準拠として、1年次まで、2年次の内容についての質問に答えられることができる。</p> <p><b>SPEAKING</b> 身近なことに関しての簡単な質問に英文以上で答えられることができる。</p> <p><b>LISTENING</b> テレホンや録音の音声から、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>READING</b> あるいはその準拠として、短や短文などを簡易な英語（SHOW&amp;TELL）をすることが出来る。</p> <p><b>WRITING</b> 簡単な文法、簡単な文法を用いた短文（1～2行）を書けることができる。あるいは、短い英語や生のラジオ番組、録音を聴取できる。</p> <p><b>LISTENING</b> 簡単な英語（英検準級）のリスニング（聞、聴）の理解ができる。あるいは、短い英語や生のラジオ番組、録音を聴取できる。</p> <p><b>READING</b> 簡単な英文（英検準級）の読解の理解ができる。あるいは、簡単な英文を読み、内容を理解できる。</p> <p><b>WRITING</b> 3人以上のグループであれば、自分の意見や感想を述べ、その内容を発表できる。（ワークシートで評価）</p>	
Step 3 【英検2級～準2級程度 GTEC GRADE3 (380～439) 程度】コミュニケーション英語Ⅱ終了時まで	<p><b>到達目標</b> 簡単なリスニングであれば、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>SPEAKING</b> 簡単なリスニングであれば、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>LISTENING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>READING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>WRITING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p>	
Step 3-2 【英検準2級程度 GTEC GRADE3 (380～439) 程度】2年生後期終了時まで（英会話終了時まで）	<p><b>到達目標</b> 簡単なリスニングであれば、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>SPEAKING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>LISTENING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p>	
Step 4-1 【英検準2級～2級 GTEC GRADE4(440～519)程度】コミュニケーション英語Ⅲ終了時まで	<p><b>到達目標</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>SPEAKING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>LISTENING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>READING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p> <p><b>WRITING</b> あるいはその準拠として、自分の意見や感想を述べることができる。</p>	

**外側の白い枠にポインタを合わせたあと右クリックし、ワークシートオブジェクトの「開く」をクリックすると、エクセルの画面で開くことができます。**  
**必要な方はコピー＆ペーストしてお使いください。**

普通科のCan-doリストです。普通科は  
 1年次 コミュニケーション英語基礎（1単位） コミュニケーション英語基礎（3単位）  
 2年次 コミュニケーション英語Ⅱ（4単位） 英語会話（選択2単位）  
 3年次 コミュニケーション英語Ⅲ（4単位） 英語表現Ⅰ（3単位）  
 と選択科目があるため、それぞれの科目ごとのCan-doリストになっています。  
 英語会話の評価規準は科目の特性から「聞くこと」「話すこと」のみ

同様に  
 英語表現Ⅰも「話すこと」「書くこと」の2点になっています。  
 ゴールは3年生でディベートやディスカッションができるように  
 下地の活動を2年次、1年次に組み込んでいます。  
 1～2年次は教科書で学んだことを表現することで、生徒がお互いに  
 理解でき、表現できる英語を増やし、3年次からはその表現をベースに  
 自分の意見を表現するつくり構成しています。

また来年度への動きとして、生徒の自己評価用の枠もつけました。  
 定期考査の解答返却時を利用して、自己評価と考査の振り返り  
 をすることを目的としています。

### ③ CAN-DOリストと観点別評価とのリンク



## 観点別評価とCan-doリストのリンク・整合性

### 多くの高校で見られる現状

- Can-doリストは作成したが、観点別評価の4観点と4技能の整理がつかず、観点別評価に移行できずにいる。
- 観点別評価をなぜ行っていくのかというメリットの共通理解が十分でない。
- 観点別評価の評価のプロセスの説明は受けたことはあるが、処理の複雑さを考えると手がつかない。

観点別評価とCan-doリストのリンクについては、高校は上のような現状があると思います。

しかし、学力の分析をするためには多くのメリットがあることですから、これらの障害がクリアできれば、またこのことが比較的わかりやすく伝わり、さらに必要なファイルがそのまま使え、加工もできるようであれば多くの先生方の役に立てる、間接的には、多くの生徒のためになると考えました。プレゼンテーション形式を取っているのはそのためでもあります。

**\* ホームページでご覧の先生方は、PDFファイルとなっておりますので、パワーポイントでの資料は本校にemailでご連絡いただければと思います。**



この3点を解決するための取り組みを行う。

## 課題①改善のために

- ・ Can-doリストは作成したが、観点別評価の4観点と4技能の整理がつかず、観点別評価に移行できずにいる。



観点別評価がしやすいように整理する。

多くの高校では、CAN-DOリストは作成しましたが、観点別評価とリンクはしていないのではないかと思います。しかし、今後はこのことが求められてくると考えています。上の整理がつかないのは、CAN-DOリストの4技能「話すこと、読むこと、聞くこと、書くこと」に対して、英語科の評価の4観点は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化への知識・理解」となっており、4技能の評価を4観点のどこに入れればいいのかと混乱が生じるからです。この問題を解決するため、整理をすることにしました。

## 外国語科の目標

外国語を通じて、

- ① 言語や文化に対する理解を深め
- ② 積極的にコミュニケーションを図ろう  
とする態度の育成を図り、
- ③ 情報や考えなどを的確に理解したり
- ④ 適切に伝えたりする **コミュニケーション**  
**能力を養う**

新学習指導要領から抜粋した英語科の目標です。

この文言を分析すると、①②③④となり、育てようとする力はやはり「コミュニケーション能力」であることがわかります。

英語科の4観点に①②③④を当てはめると

- ①は「言語や文化への知識理解」
- ②は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」
- ③は「外国語理解の能力」
- ④は「外国語表現の能力」

となると思います。

つまり、①②③④すべてを含めて英語科の学力ということができます。

## 観点別評価とのリンク

コミュニケーションへの  
関心・意欲・態度

①②をしようとしているか  
～しようとするか

外国語表現の能力 ①話すこと・書くことができるか

外国語理解の能力 ②聞くこと・読むことができるか

言語や文化への  
知識・理解

単語・文法手紙の書き方など  
を理解しているか

\* 赤字部分がCAN-DOリスト

それでは、学力の4つの要素をどう評価するのかを具体的に示すことが大事だと考え上のように整理しました。

上からいきますと

### **「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」**

技術面・技能面ではなく、授業中の言語活動やパフォーマンステストでの意欲・関心・態度を評価します。特に授業中の関心・意欲・態度は、その継続性も考慮して評価します。

### **「外国語理解の能力」「外国語表現の能力」**

**CAN-DOリスト上のそれぞれの到達目標は「外国語理解の能力」や「外国語表現の能力」で評価することになります。**

ただ、パフォーマンステストを行ったとき、表現力はつたなくても、積極的に到達目標をクリアしようとしている態度面もありますので、その場合は予め「～できる」を「～しようとしている」にした評価規準を用意しておいて、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と両面で評価することも考えられます。

### **「言語や文化への知識・理解」**

いわゆる、語彙・語法問題、教科書の言語材料の定着を測る問題です。その他、手紙の書き方や意見の構成なども入れることができます。今までの多くの定期考査がこのタイプの問題であることが指摘されていますので、もちろん、評価はしますが、割合には注意します。

以上のように行いますが、それぞれの観点の重みは基本的に均等に扱い、1:1:1:1評価の満点が100点であれば、「関心・意欲・態度」25点、「表現の能力」25点、「理解の能力」25点、「言語・文化」25点となるようにします。どうしても1:1:1:1にならないようであれば、おおよそ1:1:1:1にすればいいと思います。



# テストと観点評価

コミュニケーションへの  
関心・意欲・態度

観察評価・ワークシート等

外国語表現の能力

筆記テスト（書くこと）

実技テスト（話すこと）

音読テスト（読むこと）

外国語理解の能力

筆記テスト

（初見リスニング・初見リーディング）

言語や文化への  
知識・理解

筆記テスト（語彙・語法・文法）

前のスライドを評価方法は、上のような形になると考えられます。

## コミュニケーションへの関心・意欲・態度

「～しようとしている」「～に関心をもっている」を見るので、基本は授業の活動の観察や授業で行ったワークシートから判断します。技術的なこと能力的なことは評価しません。

## 外国語表現の能力

話すことであれば「スピーチテスト、インタビューテスト、リテルテスト、即興スピーチテスト」などのパフォーマンステスト

書くことであれば「ライティングテスト」

\* 上にはありませんが、レポートの完成度もあると思います。

本校では、トピックライティングのテストやディクトグロステストなどを行っています。

## 外国語理解の能力

聞くこと、読むことともに初見のものでテストします。教科書は一度読んでいるので使わずに、出題しても、音読を促進させるための問題（後で紹介します）にします。

教科書を使う場合は、論文調の文章はダイアログに直したり、その逆をリスニングやリーディング問題として出題すれば、教科書の題材を生かしたテストになり、授業とのつながりが一層強くなると思います。ただ、リスニング問題やリーディング問題の出題形式については、各種検定、GTECの難易度や出題形式と同じレベルにしておかないと外部試験では力は発揮できないと思います。そういう意味では、外部試験とのつながりも考慮したテストにするといいと思います。

## 言語や文化への知識・理解

語彙・語法・文法についての出題がメインになります。教科書も初見でない場合は知識・理解で評価しています。

## 課題②改善のために

観点別評価をなぜ行っていくのかという  
メリットの理解に高まりがない。



英語の学力を4つの観点に分けて到達目  
標への達成度を定点観測できるため、指  
導の振り返りが容易になり、指導改善に  
つながるというメリットを発信する。

すでに研修をしたことがある先生方も多いと思いますが、「なぜ観点別に評価するのか」という点へ疑問を持っておられる先生方も多いと思います。そこで、その意義やメリットを発信することは取り組みを促進させると思いました。そこで上のようなメリットを発信することにしました。

**端的にいうと、メリットは「学力の分析が容易になり、授業の改善につながる。」ということです。**

外国語科の目標は4つの要素(観点)で構成されており、その4つ全てを含めて英語科の学力と考えると、その4つの要素(観点)の評価を出せば、全てABC判定されて出力されるシステムを作れば、どの要素(観点)が弱いかが分析できます。

そして弱点をどう克服していくか対策を立てていけば、徐々に指導の改善につながります。

今後は「評価を出した後、どう分析するのか」ということが課題になってくるのではないかと思います。

# それぞれの観点での改善の要点

コミュニケーションへの  
関心・意欲・態度

- 活動の工夫が必要ではないか
- 無理させすぎではないか
- 同じ活動で飽きているのでは？

外国語表現の能力  
外国語理解の能力

- ①話すこと・書くことができるか
- ②聞くこと・読むことができるか
- 知識がないのか
- 知識はあるが使えていないのか

言語や文化への知識・理解

- 活動できる十分な知識・理解があるのか
- 知識があるのであれば、表現・理解に結びついていないのはなぜか？

評価を出したときは次のように分析しています。

## コミュニケーションへの関心・意欲・態度

授業中の言語活動に積極的に参加していない生徒が多い場合は、活動の負荷や、方法、または同じことを続けすぎているかなどを考えます。

また、英語が嫌いな生徒や苦手な生徒はまずこの分野を高めて、その気にさせることが最優先となるでしょう。英語をまず好きにさせることから始めるということです。

## 外国語表現の能力

### 外国語理解の能力

これらについては、言語・文化とのかかわりでみて、知識はあるが使えないなら、使う活動が不足しているか、本番(テスト)と言語活動(授業での練習)が結びついていないなどが考えられます。

知識がないなら、知識を入れる必要があるのかもしれませんが。

## 言語や文化への知識理解

ベースとなる知識が活動をするために必要なほど理解されていないことが考えられます。

## 期待される効果（PDCAサイクル）

①指導の結果に当たる評価（＝指導の結果ついた学力）の分析を各観点で行うことによって、中・長期的な指導のあり方を振り返ることができる。

↓

②指導の振り返りを次の指導への指導計画に反映させる。

↓

③ 実 行（伝 達）

↓

①に戻る

到達目標の達成度を測るテストを作成した（授業より先に、完成させておいたほうが良いと思います。）

その結果はテストまでの期間での指導結果と考え、定点観測を行います。

単元ごとに評価を統括することは単元ごとに指導の振り返りができ、早めの対応ができるというメリットもあると思います。

定点観測した分析結果を次の指導や次年度のシラバスに反映させることでPLAN（計画）→DO（実行）→CHECK（振り返り）→ACTION（実行）というPDCAサイクルに載せ、回数を重ねれば重ねるほど洗練されていくように授業改善・シラバスの改善を進めていきます。

## 課題③改善のために

- ・ 観点別評価の評価のプロセスの説明は受けたことはあるが、処理の複雑さを考えると手がつかない。



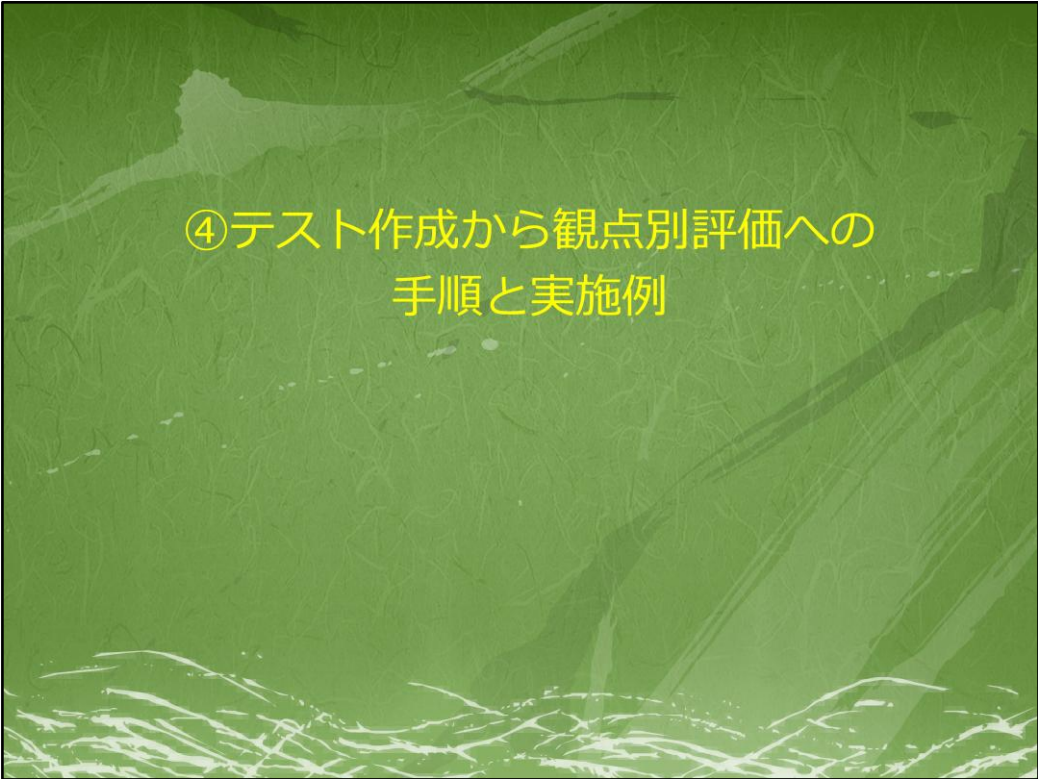
- ・ 小・中学校に倣い、表計算ソフトのワークシートで評価できるようにする。

おそらく10年者研修などでは、観点別評価の研修をしてきている先生方が多いと思いますが、その作業は結構処理が複雑に感じられて手を付けるのが後手後手になっているのが現状だと思います。

しかし、小学校や中学校では、観点別評価にエクセルなどの表計算ソフトを用いている学校もたくさんあり、本校はそのワークシートを(窓の杜やベクターのシェアウェアから入手)本校の教務内規と整合性がつくように加工して使用しました。

本校では、ワークシートの存在が観点別評価への取り組みのスタートを切る大きなきっかけになりました。





## ④テスト作成から観点別評価への 手順と実施例

資料 C

## The Mid-Term EXAMINATION of the 1st semester

〈 ENGLISH I  
for 3rd-year students  
in the bookkeeping

このテストをクリックすると、  
テストの中身が全て見られます。

[ notes ]

(1) There are 5 sections from [1] to [5].

(2) This examination has 6 pages.

(3) Write your answers on your answer sheets.

(4) Write your name on every answer sheet.

3rd year class ( ) No. ( ) Name

ほんの一例ですが、テストの部分をクリックすれば、  
テストの中身を見ることができます。

テストは、一つの例を提示すると

- 問題1 リスニング
- 問題2 語彙・語法・教科書
- 問題3 初見リーディング
- 問題4 ライティング問題

となっており、いわゆる総合問題は出題しません。

イメージとしてはGTEC・英検・センター試験のようにします。  
英検もGTECも英語力の分析を出してくれますが、学校内  
の評価も観点ごとに分析ができ、その作業が比較的楽にで  
けるようにテストをデザインします。

また、テストの大問の上にテストポイントとして、到達目  
標を記載しました。それぞれの大問ごとの点数の合計を次の  
スライドの表に記録します。

また、テストの形を生徒に示すことで、授業の活動がテストに  
つながっていることが明確になります。

まだまだ改善が必要ですが、必要であればコピー&ペーストしてたたき台としてお使いください。(一太郎ファイルです。)

個人的にはですが、テストの合計点はなくし、セクションごとの  
合計を出して生徒に分析させたほうがいいのではないかと思  
っています。また、このテストはビジネス科の50分で行うテストです  
ので、普通科では100分~120分くらいで行うテストにして、  
それぞれの大問の問題数を増やすことが必要になってくると  
思います。

観点別評価やCan-doリストの取り組みが進めば、進むほど  
今度は筆記テスト、実技テストが大切に思えてきます。近い  
将来はこの分野での取り組みが必要になると思います。





## ⑤ ICTの使用



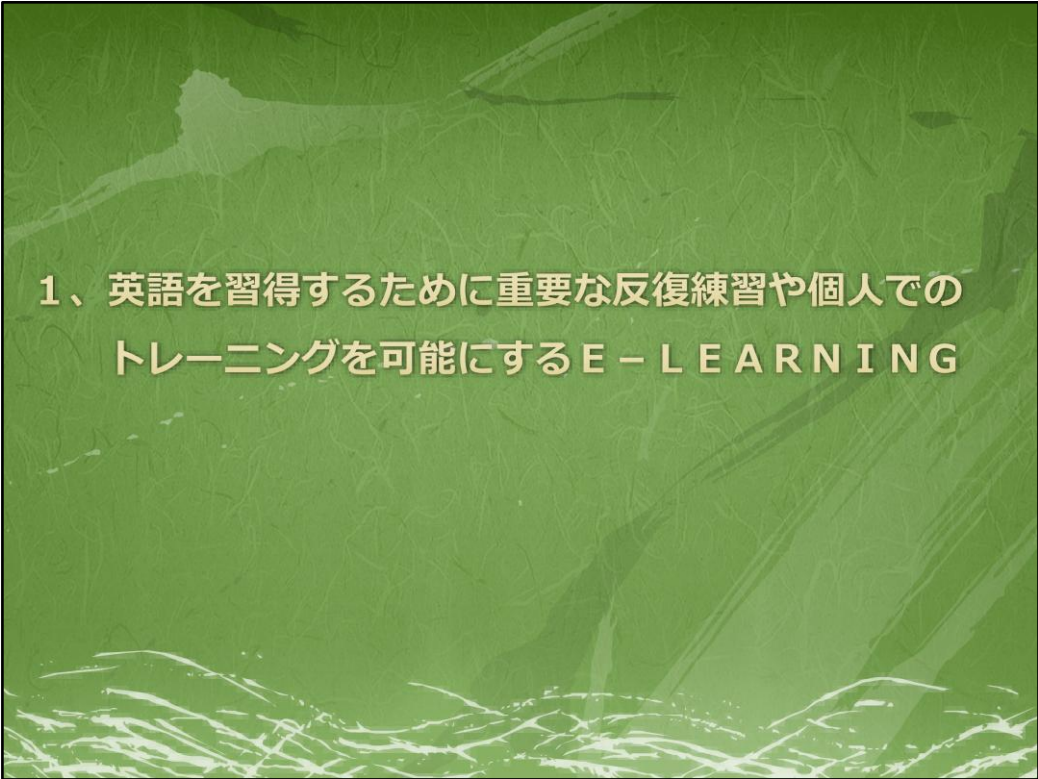
# ICTの使用について

- 1、英語を習得するために重要な反復練習や個人でのトレーニングを可能にする  
E-L EARNING**
- 2、学習内容を印象に残すため、授業を演出するためのICTの効果的な活用**

2つの取り組みを行っています。

1つはE-L EARNINGですが、家庭学習として行っています。

2つめは映像や音声を効果的に使いたいということです。



1、英語を習得するために重要な反復練習や個人での  
トレーニングを可能にするE - LEARNING

## 1年生対象

### E-LEARNINGによる 中学校段階の英語文法の復習

- ① **副教材**として導入
- ② 宿題・自習課題として指導

受益者負担で、11月末の副教材選定の時期に副教材として購入します。  
基本的には家庭学習ですが、課題の管理がしやすく便利です。  
また、高体連や出張などで自習になったときも、E-LEARNINGですとかなりの練習量をこなせます。  
パフォーマンステストの時の待機生徒用にも有効だと思います。

## 2年生対象（次年度）

次年度よりE-LEARNING中級編  
（高校中級程度）を開始

- ① **副教材**として導入
- ② 宿題・自習課題として指導予定

次年度からは2学年も使用することになりました。

## 3年生希望者対象

センター試験用 E-LEARNING

3年生は希望者で行っています。  
大学でもE-LEARNINGで学習する大学も増えていますので、  
大学進学後にも役立つと思います。





**クリックすると、詳しいE-LEARNINGの情報が見れます。**

宿題の管理がしやすく、しかも間違っ問題とできた問題を振り分けて、できなかった問題を反復練習させてくれますので重宝しています。

さらに、先生方はパソコンから、課題の進捗状況を確認することができ課題の回収やチェック作業をしなくても、自動的に全て管理してくれます。

ちなみに、スマートフォンからも勉強することができますし、先生もスマートフォンからも進捗状況を確認することができます。

## 2、学習内容を印象に残すため、授業を演出するためのICTの効果的な活用

# ICT機器の充実

## 学校魅力作り事業

ipod touch 8台

ワイヤレススピーカー 8台

ビデオプロジェクター 1台

デジタルビデオカメラ 1台

学校魅力作り事業の予算で、不足していたICT機器を購入しました。  
ipod touchとワイヤレススピーカーは英語科教員に1人1台あたりでした。  
ICTの取り組みは機材がないと取り組みが進まないため、  
推進への大きなきっかけになりました。

#### ipod touch

→写真・映像・音声面の充実

レッスンの導入時などに写真・映像を効果的に使えるようになった。音声面でも音声を取り込み使用が容易になった。

さらにipod touchだけでもプレゼンテーション資料が作成でき、持ち運びも非常に楽である。

#### ワイヤレススピーカー

→ipod touchと組合わせて使用。

\*音読、スピーキング活動時のBGMをかけるために使用。

→無線でipod touchと接続できスピーカーまで行かなくてもBGMを消せる、また小型で持ち運びがしやすい。

他にもあると思いますが、それぞれのICT機器を上のような形で現在使用しています。

### デジタルビデオカメラ

→スピーチや、インタビューテストを映像で記録できるようになった。

- \* テストの採点を後に回せるため、テストの時間短縮になる。
- \* プロジェクターと組み合わせて、書画カメラとしても使用できる。

### ビデオプロジェクター

- \* 黒板やホワイトボードに直接投影できるため、便利である。写真・動画を見せるために使用。
- \* 英語科オリエンテーションやENGLISH CAMP、SPEECH CONTESTでも使用できるようになった。
- \* 写真程度であれば、USBメモリーで写真を投影できる。

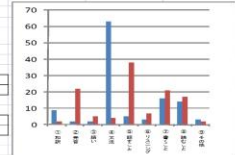
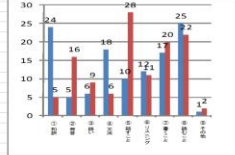


## ⑥授業アンケート集計と結果分析

# アンケート結果より

平成24年度 第1学年（普通科）英語の学習・授業に関するアンケート集計結果（4月）

平成24年度 第1学年（普通科）英語の学習・授業に関するアンケート集計結果（4月）										平成24年度									
<b>高校入学前の様子について</b>																			
1. 英和辞書及び和英辞書の使い方を知っていますか？																			
ア 知っている 40 知らない 72 どちらかといえばわからない 10 全くわからない 0																			
2. 辞書を主にどのような場面で使っていましたか？																			
ア 授業で 27 イ 家庭学習で 79 その他 12																			
3. 英検の資格を持っていますか？																			
ア はい 40 イ いいえ 78																			
3級 15 4級 23 5級 2																			
4. 英語塾または英会話学校へ通ったことがありますか？また、どこですか？																			
ア はい 22 (左の欄) イ いいえ 98																			
5. 海外留学(例:ジュニア大塚)の経験がありますか？																			
ア はい 1 イ いいえ 117																			
6. 次の質問に当てはまる答えを、語群から選び数字で答えなさい。																			
A. 中学校の英語の授業でどんな力が一番身についたと思いますか？																			
① 和訳 ② 発音 ③ 読み ④ 文法 ⑤ 話すこと ⑥ リスニング ⑦ 書くこと ⑧ 読むこと ⑨ その他																			
24 5 6 6 18 10 12 17 25 1																			
B. 中学校の英語の授業内容で一番重点が置かれたものは何だと思いますか？																			
① 和訳 ② 発音 ③ 読み ④ 文法 ⑤ 話すこと ⑥ リスニング ⑦ 書くこと ⑧ 読むこと ⑨ その他																			
9 2 2 63 5 3 16 14 3																			
<b>高校入学前の様子について</b>																			
1. 英語の勉強は好きですか？																			
ア 好きです 20 イ どちらかといえば嫌い 39 嫌い 21																			
2. 英語の分野で好きなのところはどこですか？																			
ア 読むこと 28 イ 話すこと 21 ウ 書くこと 27 エ 聞くこと 28 オ 英文法 5 カ その他 9																			
3. 英語の分野で苦手なのところはどこですか？																			
ア 読むこと 10 イ 話すこと 29 ウ 書くこと 24 エ 聞くこと 13 オ 英文法 38 カ その他 4																			
4. 海外留学に興味がありますか？																			



**クリックすれば、中身を見ることが出来ます。**  
**また、外側の白い枠にポインタを合わせたあと右クリックし、ワークシートオブジェクトの開**  
**くをクリックすると、エクセルの画面で開くことが出来ます。**

アンケート結果です。4月と12月にとったアンケートです。  
 これは生徒の情意面についての分析ですが、12月のピンクの欄が大きく変化が見られたところになります。  
 アンケートから分析結果は非常に重要で、この結果を見ると本校の英語教育の課題が見えてきます。

少し細かく見てみると

**検定**は大きく改善がみられました。

「英語が好き」という項目を見ると、少しの改善が見られるものの、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」も3割～4割ありますので、**英語を好きにさせる何らかの取り組みが必要**ということが見えました。

「英語の分野で好きなのところ」では「話すこと」が1位ですが「英語の分野で苦手なのところ」では、「話すこと」「書くこと」に苦手意識を持っていることがわかります。  
 特に話すことは「好きだけど」「難しい」と考えているので、達成感を持てるように、授業の仕掛けを考える必要があります。  
 また、「文法」については「好きではなく苦手」ということですので、楽しいと思える活動と文法の指導を組み合わせることが必要だと考えられます。

留学や国際交流については、アメリカ、ヨーロッパ圏には興味関心があるようですが、アジア地域にはあまり関心を持っていないようです。  
 しかし、これからの将来を考えるとアジアの国々との協働が多くなってくるのが考えられますので、関心を持ってもらえるような仕掛けが必要だと考えます。

# 参考文献

- コミュニカティブ・テストへの挑戦 [根岸 雅史](#) (著), [東京都中学校英語教育研究会](#) (著)
- 観点別学習状況の評価規準と判定基準 中学校外国語  
平成24年版 [北原 倫彦](#) (監修), [山森 光陽](#) (編集), [鈴木 秀幸](#) (編集), [松浦 伸和](#) (編集)
- 英語授業の「幹」をつくる本 テスト編 [北原 延晃](#) (著)
- 英語テスト作成の達人マニュアル (英語教育21世紀叢書) [静 哲人](#) (著)  
無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る-正しい問題作成への英語授業学的アプローチ (英語教師叢書) [若林 俊輔](#) (著),  
[根岸 雅史](#)
- 小中連携Q&Aと実践-小学校外国語活動と中学校英語をつなぐ40のヒント  
[尾谷 隆一](#) (著), [直山 木緒子](#) (著), [卯城 祐司](#) (著), [石塚 博規](#) (著), [中村 香恵子](#) (著), [中村 典生](#) (著)
- 協同学習を取り入れた英語授業のすすめ (英語教育21世紀叢書) [江利川 春雄](#) (著, 編集)
- 英語のテストング-実践的アプローチ [青木 昭六](#)
- 感動する英語授業! 教師のためのICT単面白活用術55 (目指せ! 英語授業の達人) [大塚 謙二](#) (著)
- 国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策  
~英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて~ (本文・概要)
- 到達目標に向けての指導と評価-中学校英語科 [本多 敏幸](#) (著)
- 開隆堂中学校英語WEBマガジン~明日からの授業のために